

令和元年度 第1回安城市特別職報酬等審議会議事録要旨

日 時 令和元年11月1日（金）
午後2時から午後3時20分まで
場 所 安城市文化センター 302会議室
出席者 （委員） 塚田委員以外出席
（事務局） 企画部長、人事課長、人事係長

<市民憲章の唱和>

- 1 辞令交付
- 2 市長あいさつ
- 3 会長選出
沓名俊裕委員（委員の互選により）
- 4 会長あいさつ
- 5 副会長の指名
伊吹直文委員（会長の指名により）
- 6 諮問
市長から沓名会長へ諮問書が渡される
- 7 議事
特別職の報酬等について

【事務局より資料説明】

会長 事務局からの資料の説明が終わりました。それではご質問等、ご意見でも構いませんが、いかがですか。

委員 地域手当がどういうものか教えていただきたいです。

事務局 地域手当は、同じ地域の民間企業との賃金水準の差等を調整する手当で、傾向として民間企業の賃金水準が高い地域ほど高い割合となります。国が市町村毎に基準値を示しており、安城市や近隣の岡崎市も基準値では6%ですが、安城の場合は近隣の豊田や刈谷を踏まえて12%としております。国が行う賃金センサスという調査により、各自治体に所在する企業が支払う賃金水準を調査し、その水準に応じて各自治体間の給料を調整するものです。

委員 資料5頁「安城市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例」とありますが、「費用弁償」についてはどこで触れられていますか。

事務局 資料に記載の条例の第5条で旅費に関して触れ、定めております。

委員 計3回あるこの審議会が、どんな役割を果たしていくのか説明していただきたいです。

事務局 事務局の思いとしては、本日を含めて第2回までには皆さんで協議の上結論を出していただき、第3回ではその内容を市長に対して答申していただければと考えております。

委員 財政力指数がどのようなもので、どのように算出されているのかご説明いただけますか。

事務局 財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指標で、普通交付税の算定に用いられる基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値の過去3年分の平均値となります。この数値が1.0を上回れば、その自治体内での税収入などのみを財源として円滑に行政を運営できるとされ、地方交付税交付金が支給されない不交付団体となります。

国が、人口10万人規模の市を基準にして、標準的な行財政運営を行う場合にかかる費用を定めており、これに基づいて安城市での基準財政需要額が決まります。

実際の安城市での税収等を含めた収入とこの需要額の比較によって財政力指数が出され、数値が1を超えると、独自の税収のみで行政運営ができるとのことで、国が消費税や所得税等の税収から各自治体に交付している地方交付税が不交付になります。

刈谷市はトヨタ系の企業が多かったり、豊田市はトヨタ自動車の本社がある関係で税収が豊かであり、財政力指数が高くなります。みよし市にもトヨタ自動車の工場がある関係で、数値が1.5と高くなっています。

委員 資料23ページの改正は、人事院からのものですか。以前に、市長が独自に下げるという話を聞いた覚えがあるのですが。15年の10月や23年の4月は、皆さん全員下がってますよね。先ほどの説明は、何か違うように聞こえたのですが。

事務局 下がっている部分は、あくまでこの審議会でお諮りして出た答えを

そのまま載せておりますが、そこから政策的にカットされた場合のカット後の金額がここに載っているという訳ではありません。

選挙公約でカットした際には、20%等の率でカットされておりました、この審議会では、そのカット分は考慮せず条例で定められた金額をどうするかを審議しております。今言われた部分は、対応する年の人事院勧告の数値が2年連続でマイナスになっており、これを受けて、総合的に判断して1.2下げたということだと思います。今手元に資料がないので経緯について明確な理由はお答えできませんが、人事院勧告で14、15年と2年連続で大きな減額幅があり、それを踏まえてのことだと思いますし、23年度も3年間マイナスが続いたことを受け、ここに、市の財政状況や市長等の政策の成果なども皆さんからご議論いただいた上で市長等の報酬も減額されたというところだと思います。あくまで条例上の報酬に対しての数字としてご理解ください。

委員 各市の教育長の改定状況を見ると、改定前と改定後の県内順位が大きくぶれています。市長や副市長に比べ、上げ下げが結構大きい印象を受けますが、何か要因はありますか。

事務局 県内順位は他市の動きも含めて相対的に変わり、例えば豊橋市は率で見ると23.33%増ということで、確かに市長や副市長とは動きが違っています。一度調べさせていただき、わかれば第2回的时候可以に少し説明をできればと思います。

委員 議員の活動について、定例会の日数が、例年90日前後だったものが30年に82日と減っている要因は、議案の本数が減っていること以外に具体的にありますか。

事務局 この場で資料がありませんので、議会事務局にも聞いてまいりたいと思います。次回の宿題ということでお願いします。

委員 安城市の財政力が非常に良いのはよくわかりました。人事院勧告も上がっているという状況の中、恐らく特別職報酬は上げていく格好なのかなと想像しますが、具体的にどのようにご提案されてくるのか、その辺りはいかがでしょうか。

事務局 おっしゃるとおり、人事院勧告の上がりが続いていることを加味した上での案も一つ作っていかねばと思いますし、据え置きという

答えもあろうかと思えます。案を幾つか事務局で作って次回までに出し、その中で協議いただければと思えますのでお願いいたします。

委員 一覧表を見て、刈谷市とどうしても比較をしたくなりますが、市長さんや特別職の方たちの給料によって、市の職員も多少変わってくるんですよね。

事務局 特別職の給料は、我々とは特に連動はしていません。我々は人事院勧告を受けて、そこでの改定に合わせて変わってまいります。

委員 人事院で決められたところで6年、少しずつ上がっているのですが、やっぱり一生懸命働けば、その分成果として給料はどうしても欲しいし、上がれば上がったように職員の方もやられるのではないかと思います。企業でも、給料が上がっていけばやる気が出て、またそれがプラスになると考えます。当然今回の審議会は特別職の人たちのことを考えますが、職員の方も刈谷市の人たちに比べると低いですよ。

刈谷市と張り合うわけではありませんが、良い職員が採用されるには、やっぱり一番給料を見ると思います。だから、少しでも上がったとやる気に繋がる方向に向けていけたらと思っております。

委員 給料体系を他の市と比較すると、隣の刈谷市を一つの基準にしている気がしますが、いかがですか。

事務局 間違いなく参考にはしており、意識をしていないと言うと嘘になりますが、結果的にそういう数字になっているということだと思います。

先ほど、我々市の職員の給料について非常にモチベーションが上がるようなご意見をいただきましたが、給料は、例えば刈谷市と比較しても国が示した同じ給料表を使っております。大卒初任給も同じで、定期昇給で毎年給料表で4号ずつ上がっていくのも同じです。

地域手当や係長になる年齢等に少しの違いはあるのかもしれませんが、基本的には同じで、国家公務員準拠という原則がありまして、税収が多いからとか、頑張っているからということで変えられるものではありません。

委員 市議会議員報酬も、豊橋、岡崎、豊田といった中核都市は非常に高いですよ。中核都市だと、このような審議会はなしに独自で決められるのですか。

事務局 よほど、どこの市もこういった審議会を持って決めていると認識しております。

審議会でもいただいた数字をもとに議会に上程し、議会で承認を受けると決まるということです。

委員 今回の審議結果は、いつの議会で決まる予定ですか。

事務局 来年3月の定例会で上程する予定です。

委員 委員9名がそれぞれの肩書を持ち、公共団体等を代表するもの、また一市民として、ご意見を申し上げる訳ですが、その参考として、歴代の数字や県内各市の数字を踏まえて、思うところを述べ、数字でお答えするというのが全体の話ですね。

その数字が妥当か否かを評価する基準が、他市というのがどうも。安城市固有の財政力、人口規模、人口世帯ピラミッドとか、収入支出の財政規模をベースに評価するわけですので。隣の刈谷市さんを見るというのは一番早いですが、それだけではないのではないかと思います。

ただ、まだ予備知識として、与えられた数字への自分なりの評価がなかなかお応えできないのが少し歯痒く、当面は刈谷と張りあう部分での評価ということになるかもしれませんが、どうも不完全燃焼な部分があります。

委員 先ほどのやりとりを聞き、私は正直刈谷を意識したことはありません。良し悪しはわかりませんが、割と皆さんが刈谷を意識されている事がわかりました。確かにすぐ隣ですが、人の行き来としては安城から刈谷にお勤めの方もその逆もいると思います。誰でも、自分個人と他人を比較して自分を決めることもあり、比較すること自体は悪くないと思いますが、そこに引きずられないように考えていけたらと思います。

委員 私は反対に地元が刈谷で、学校がずっと刈谷でしたので、どうしてもその数字は見ます。安城は、昔は農業で工場は少なかった中、工場がたくさんできて大きくなり、だんだん刈谷に近づいてきたように見えています。私は、工場もですが、若い人たちが働きやすい職場をつかっていただきたい。安城は土地柄、刈谷よりも広々として大きな工場もたくさん出てきてるので、これから成績がどうなるかと数字は見ま

すが、皆さんが本当に働きやすい職場を。確かに給料は大いにこしたことはないですけど、多いということは仕事の中身も見なくてはいけない。そこを踏まえ、皆さんで良い数字を決めていただきたい。

事務局

すみません、以前の質問で次回2回目である程度答えを、とお話しましたが、今資料を見て等というのはなかなか難しいと思います。

2回目開催の大体1週間前に、事務局案で判断材料になるものをお送りしたいと思いますので、またそちらも予めご覧になっていただきまして、2回目のご審議ということでお願いしたいと思います。

委員

確かに潤沢な企業からの税収で財政力アップということは間違いないことですが、今安城市の中には農地が3000町歩もあるような中、毎年かなりの面積が減ってきています。

それと今年も、台風や直接的な被害はなかったものの異常気象が常態化してきている中、農家の立場からすると大変厳しい状況です。

農産物価格は上がり逆にながれるような状況になりましたし、収量的にも大変厳しい状況で、農家の所得は実質的に下がっており、人件費もどんどん上がってきているというような中です。相対的なことを考えていくと、農家からすると大変厳しいのが現実です。

そういった中で、安城市全体で考えるべきところですが、農業者の感覚でいうと、中々上げられないというのが正直なところ。すみません、正直にこういった状況であるということだけお伝えしておきます。

委員

こういうところに初めて参加させていただき、今まで数字を全然見たことがなく資料を見るだけでいっぱいの状況ですが、安城は昔は刈谷の人からすると田舎者っていうイメージを持たれていましたが、今は三河安城を見てもビルやマンションも多くなり、すごく発展してきたと思います。若者が政治離れし、市に対しての興味が薄れてきているところがあります。こういった機会ですらいろいろ勉強させていただいて、市の方がやっていることを学びつつ、判断させていただくことで今後の安城市の発展に向けて勉強になるのかなと思いますので、ぜひ2回、3回と色々な意見を出していきたいです。

委員

私どもは地域機関として、地域とともにあしたをつくるというのは企業理念でもあります。今までは、このエリアは地域の伸びのおか

げで携わっている地域金融機関も順調に伸びる時代でしたけども、そういう地域におんぶに抱っこではいけないなど。地域の金融機関として、もう少し関わっていかねければと最近よく思います。

今回委員としてしっかり見ていきたいと思ひますし、今回の資料も非常に参考になり、ここで愛知県下の市のいろいろな数字が出ています。私どもは愛知県市町村手帳というものを手元に持ち、各市のキャッチフレーズ、面積、市街化区域が何%などいろいろな資料がわかりやすく載っており、こういうものは入手できるのか少し聞きたい。県のものということですが、委員に配っていただくと非常に参考になると少し感じました。

委員 市議会議員の政務活動費のところ、1人の議員に対して安城市では36万円となっていますが、これは全員がほとんど使ってらっしゃるのですか。これがベースになって、議員報酬の方に絡んでくるのではないかと思ひました。

安城市の政務活動費は高く見えます。必要であればいいですが、どのように使ってらっしゃるのか等あれば知りたい。

事務局 36万円の交付は個人ごとではなく会派ごとですので、大きい会派であれば、その人数分まとめてになります。前年度30年度の執行率全体を見ますと75%、残りは返還されているということです。

委員 他の市も、やはり75%ぐらいの利用ですか。

事務局 申し訳ございません。他の市での執行率は今資料がございませんので、また例えば隣の市など、ホームページなどでわかるようであれば次回ご披露させていただきます。

委員 参考に、政務活動費というのは、内訳はどういったものに使うことができますか。

事務局 内容は幾つか細かく分かれています。例えば調査研究費、こちらは会派などが行う事務、地方行政財政等に関する調査研究、調査委託に関する経費というものです。あと研修費、これは会派などが開催する研修会に要する経費やまた研修会に参加する経費です。

あと例えば会議費とか、資料作成費、資料購入費、人件費。この人件費は、会派等が行う活動補助する職員を雇用した場合に要する経費です。あと交通通信費、これは会派が行う政務活動に必要な自家用自

動車等を使用しての移動や通信に要する経費、こういったものが含まれます。

委員 毎回100%使ってみえないということだと、少なくできるということですか。

事務局 安城市のホームページのトップページから、安城市議会の専用のホームページ「やるじゃんANJO」のボタンを押して入っていただきますと、政務活動費のページもございまして、そこに会派ごとの交付額、支出額が載っておりますが、会派によって使い方や執行率にもものすごく差があります。

1番高い執行率で98%ほど、使っていないところで1割弱ぐらいのところもあります。こう考えると、一概に減らすのもなかなか難しい判断になるのかなとは思っています。

会長 本日の審議は以上で終了します。また第2回に向けて資料を送付していただけるということですので、各自で勉強していただいて、また次回に活発なご意見を頂戴できたらと思います。

本日は、長時間にわたりご審議をいただきまことにありがとうございます。今後の予定は、第2回目は答申案の検討、第3回目に答申をしたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、これにて閉会とさせていただきます。あとは事務局よろしくお願いたします。

企画部長 どうもありがとうございました。

今後の日程につきましては次第の1番下に記載がございまして、ご参考、ご予定をいただきたいと思います。

また、本日の資料は、今後第2回に向けてお送りする資料と合わせて第2回、3回にも使ってもらいますので、次回もご持参をいただきたいと思います。本日はどうも、長時間に渡りご審議いただきましてありがとうございました。